

栽培種目：ネットメロン2種

高級野菜栽培への挑戦

チーム名：阿武須貴美

氏名：三浦充雄（代表）・傍島秀志・斎下和彦・古幡史郎・

〈要約〉

毎年の野菜作りもマンネリ化して飽きてくる。高級メロンへ挑戦する企画(希望者に苗を配り情報共有して競作する)に参画して酒井根圃場でタカミレッド(果肉赤い)、アムスメロン(果肉みどり)の2種のネットメロンを各15本ずつ栽培することになった。定植から着花までは順調に進んだが着果時期になり病気出現、薬剤消毒により治まったように見えたが一時的なもので、病気は着実に進行し、果実も大きくなった1か月後には栽培地全体に広がり手を尽くすすべもなく全株が枯死した。

1. 初めに

最初は、スイカ栽培の経験と種苗メーカーのメロン栽培マニュアルがあれば大した苦勞せずに新しい高級品種であるタカミレッドとアムスメロンを収穫できると考えた。構想では、1株4子蔓として1子蔓から1個、1株4個、30株で120個の果実を収穫できるとした。ところが当該2種の高級メロン栽培方法は探しても見つからずネットでメーカーの一般的メロン栽培法をベースに栽培を進めていった。育苗、整枝・剪定、保温、給水、人工授粉、摘果、摘蔓等

どれをとっても初経験で、大変な作業に全員音を上げた。後で知ったが、当該メロン栽培法は一般のメロン栽培とはかなり異なり、良しとして行ったことが全く反対なことも多かった。

2. 方法

1)育苗(あけぼの山当会借用温室)

3月11日 播種：当該メロン2種の種(約80粒)を高級培土を入れた発泡スチロール箱に播種(条間8cm種間2cm)

4月4日 ポット上げて本葉4~5枚になるのを待つ。

2)用地の準備

酒井根圃場の1等地に南北長さ20m幅5mの用地中央に幅1.5m長さ18mの畝を形成、畝は水はけを考慮して中央を高くして畝両側に水抜き溝を設けた。

【肥料】苦土石灰/堆肥/燐炭は各適量。窒素分多い化成肥料は少なめとした。

3)定植

5月6日 株間70cmのマルチ上の植穴に堆肥2掴みを播き覆土と混ぜ、十分な水やり後タカミレッド、アムスメロンの苗を浅く植付、保温フィルム(穴あき)掛けのトンネル仕立てとした。

【使用薬剤】殺菌剤としてのダコニール1000、土壌害虫用ダイアジノン5粒剤、ウリハムシ、アブラムシ防除用のダントツ、ダンゴムシ用誘引殺虫剤デナボンS粒剤。

3. 結果(栽培経過)

- ・5月11日(晴れ) 定植した苗に水やり。
- ・5月12日(晴れ) 下葉が高温のマルチに触れ枯れる→急遽マルチ上に敷藁を敷く。
- ・5月22日(晴れ) 親蔓摘芯と整枝。
- ・5月25日(晴れ) 高温続き→保温フィルム巻上げ風通しを良くした。
- ・5月28日(曇り) 整枝→子蔓2本化とU字配置、強風とウリハムシ対策でトンネルを寒冷紗掛けに変更。ダントツ散布。
- ・6月1日 2本仕立てとした子蔓の10節までの孫蔓を欠き、10節目(着果開始点)にリボンの目印をする。蔓葉が繁茂して複雑に絡み合う中での大作業で疲労大。
- ・6月4日(晴れ) 開花期には多量の水分必要との情報あり、根元に直接注水した。
- ・6月8日(曇り) 雨多くずぶ濡れを避けるためトンネルを保温フィルム掛けに戻す。蔓が込み合うので畝幅を20cm拡張する。
- ・6月11日(曇り) 開花期迎え早朝に交配を試みたが雨続きで花粉も濡れ、筆先につかず中止。晴れた日に再トライを期す。
- ・6月13日(晴れ) 待望の晴天、7時から交配作業。雄しべは小さく花粉少なく受粉の成否不明。交配日のタグ取付する。
- ・6月17日 早朝の交配作業。11日以降の交配結果芳しからず多数の雌花が黄変脱落。自然交配(虫)とするため保温フィルムを解放した。
- ・6月18日(晴れ) 自然交配によると思わ

れるいくつかの果実が既に成長している。古い葉に斑点多数、蔓枯れ病の疑いあるためダコニール1000倍液を散布する。

- ・6月22日(曇り) 前回ダコニールを散布するも蔓枯れ病の汚染範囲が拡大しており未感染の蔓葉中心に再度ダコニール1000倍液を散布。ウリハムシの食害多し。
- ・6月26日(晴れ) 前回のダコニール散布は効果が見られた。葉の込合いが病気を誘引するので病葉と不要な蔓除去。雨対策で開けていたトンネルのフィルムを密閉した。
- ・7月2日(曇り) 孫蔓を除去し風通しを図る。果実もリンゴ大～砲丸大に成長。座布団をはかせる。
- ・7月3日(曇り) 蔓枯れ病は落ち着いてきたが再度根元にダコニール散布。各根元にデナボンSを5粒程播き集まっていたダンゴムシを退治した。蔓枯れ病は根元の過湿潤が誘引するとの情報あり、根元に雨が落ちないようにトンネル幅を拡大し保温フィルムを2枚重ねで空気穴塞ぐ。
- ・7月9日(曇り) 突然、蔓葉が一斉に枯れだし対策の取りようもなく枯死拡がる。
- ・7月13日(曇り)メロン全株が枯死、全滅

4. 考察

高級メロン栽培への挑戦は、あと1歩というところであつけなく幕切れとなった。蔓枯れ病が直接の原因であるが、なぜ収穫間近になって数日の内に一斉に枯死したのかを知るため後日開発元の松戸の園芸植物育種研究所に教えを乞うた。結果、問題点は多々あったが、播種→ポット上げ→定植を通じ、必要な温度を確保できなかったため、抵抗力を持った丈

夫な根を持つ苗を育てられなかったことが最大の要因であった。

- ・ 播種→発芽→ポット上げ→定植まで必要温度は 28 度C～30 度C。
- ・ ポットの地温,定植時の地温も上げておくこと。定植時の地温は深さ 20 cm で 18 度C 以上必要。温度管理必須である。

4. おわりに

今年度は、挑戦したが惨敗に終わった。育種研究所ではメロン栽培全体について指導を受けた。次年度は自信をもって高級メロン栽培に取り組めると思う。リベンジは十分可能だ。(完)

参考文献 ; ネット上のメロン栽培法等

4 月 11 日 育苗中のネットメロン



5 月 6 日 定植と保温フィルムトンネル



6 月 17 日 順調に生育中

6 月 22 日 蔓枯れ病の病徴



7 月 4 日 蔓枯れ病進行



7 月 9 日 全滅 (全株枯死)

